

4/26

地域の防火・防災活動を担っています

大田原市女性防火クラブ設立



令和7年4月26日、旧大田原女性防火クラブ、旧黒羽女性防火クラブ、旧湯津上女性防火クラブがそれぞれ解散して、新たに「大田原市女性防火クラブ」を結成しました。

いつの時代になっても火災予防の必要性は変わりません。家庭で火を取り扱うことが多い女性への防火・防災の教育を目的に、地域に根付いた活動を行っています。

これからも地域の安全・安心の確保に活躍されることを期待しています。

5/15

青春の証 汗と涙と感動を！

大田原高等学校伝統の強歩



大田原高等学校の伝統行事「第37回強歩」が5月15日に開催されました。

今年は生徒の安全確保の観点などから、距離を昨年の85キロから35キロに短縮しての1日のみの実施となりました。

参加した544人の生徒は、保護者や地域の方たちに支えられ、互いに励まし合いながら矢板市と那須塩原市を経由してゴール地点の「道の駅 湯の香しおばら」を目指して歩き続けました。

5/16

立派なお芋に育ってね

湯津上小学校児童芋苗植え体験



湯津上小学校1、2年生の児童約35名が、芋苗植えの体験を行いました。

畝に沿って一列に並び、地域のボランティアの方たちに教えてもらいながら、竹の棒を使って土に穴をあけ、サツマイモの苗を植えていきました。

立派なお芋がたくさん採れることを思い浮かべながら、手ぎわよく植え進め、あっという間の30分でした。今から秋の収穫が楽しみです。

5/19

卓越した技能を称えて

技能奨励賞授与式



本市の産業に従事する技能労働者で、職業能力開発促進法に基づく国家検定である技能検定試験において、特級、1級および単一等級に合格された優れた技能を有する方に対し、その卓越した技能を称え、技能奨励賞を授与しています。

今回の受賞者は、15名(出席者14名)でした。受賞された皆さまには、これからも優れた技能をもって、若き技能者の模範となり、習得された技術の練磨とさらなるご活躍を期待しています。

5/20

秋の収穫が待ち遠しい

市野沢小学校田植え体験



市野沢小学校5年生の児童たちが、農業ボランティアの方や保護者の方の協力のもと、田植え体験を行いました。

児童たちは、慣れない田んぼに苦戦しながらも、転ぶことなく苗を丁寧に植えていきました。

たくさんの苗を植えた児童たちは、田んぼを見ながら秋の収穫を楽しみにしていました。

田んぼの感触に触れ、汗を光らせながら自分の手で苗を植える貴重な体験となりました。

6/1

多くの釣り人で賑わい

鮎釣り解禁



栃木県北部を流れる那珂川で、6月1日に鮎釣りが解禁されました。多くの釣り人が日の出とともに川に入り、待ち望んだ鮎釣りを楽しみました。

清流・那珂川は、昔から天然鮎の聖地として多くの釣り人に愛されており、釣り人や地域の方たちに支えられて、現在の美しい景観を保ってきました。

毎年、県内外から多くの釣り人が那珂川に入って鮎釣りで賑わう様子は、夏の始まりを告げる風物詩になっています。

「明治のナイチンゲール」大関和をたどる

おおぜきちか

関那須与一伝承館

TEL 0287-20-0220

第2回 大関和、殿さまの謎の死を語る



大関増裕

本市（黒羽田町）出身で「明治のナイチンゲール」とも呼ばれる看護会の偉人・大関和の足跡や事績を紹介する本コーナー。今回は、和が語った大関増裕の死についてご紹介します。

第1回(5月)でも少しご紹介しましたが、和が幼い頃の黒羽藩主は、藩政改革を推進し、若年寄や海軍奉行といった幕府の要職も務めた大関増裕でした。

慶応3年（1867）12月9日、王政復古の号令によって幕府が廃止され、新政府が誕生しました。日本史の転換点ともいえるこの日、黒羽では増裕が急死しました。金丸八幡宮（現在的那須神社）周辺で狩りをしていたところ、銃弾が顔面を貫通し亡くなったといわれています。この時、増裕は30歳、和は9歳でした。

この事件については他殺説・自殺説・暴発説がありますが、和と母・哲は大正5年（1916）に「父から聞いたが、自殺だった」と証言しました。その内容は、大正7年（1918）に刊行された『黒羽藩戊辰戦史資料並附録』に収録されています。証言の信憑性については詳細な検討が必要となりますが、増裕は亡くなる前夜、家老の大関弾右衛門増虎（和の父親）を呼び出し、人払いをしてから次のように伝えたといわれています。

「我が黒羽藩は、率先して天皇をお守りしたい。しかし、気がかりなのが会津藩だ。会津藩は朝敵となり、黒羽藩は会津討伐軍に加えられるだろう。天皇には忠義を尽くしたいが、私（増裕）は幕府の要職にあるし、兄弟と思う会津藩を攻撃するのは忍びない。そこで『臣節』（臣下として守るべき節操）を全うするため、私一人が犠牲となる。黒羽藩は、天皇に尽くして欲しい。増虎は殉死などせず、私の志を全うして欲しい。」

増裕の死後、黒羽藩は新政府軍に属して白河や二本松、会津若松などを転戦し、「臣節」を全うしました。



増裕が亡くなった時に
着ていた外套
※黒羽芭蕉の館で見学可